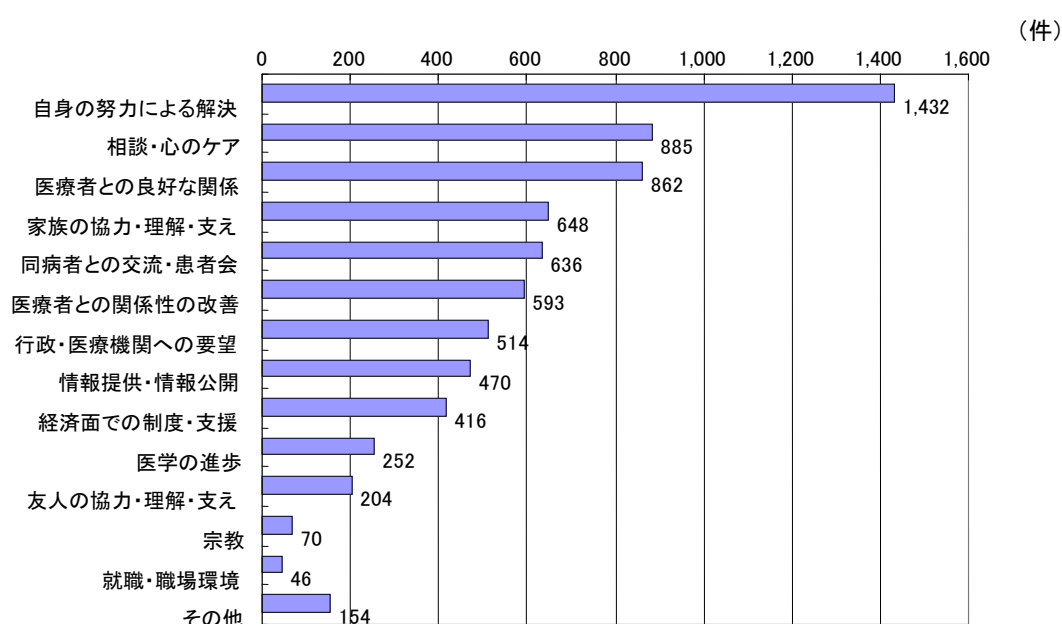


5 がん体験者が必要と考える対応策・支援策・支援ツール

自由記載で回答を求めた、本調査の根幹をなすもう一つの質問は、「悩みや負担等の軽減のための要望・支援」である。この設問には、4,911人が回答し、悩みや負担に関する自由記載の解析と同様、回答文からキーワードを拾い上げ、整理した。その結果、一人あたり1.5件、合計7,182件の要望がまとめられた。これを、14項目に分類した結果は8ページ、問10に示されているが、それを図に表し件数の多い順に並べたのが図5-1である。

図5-1 必要な対応策・支援策・支援ツール（全体）

件数=7,182



その内容は、第一位が「自身の努力による解決」で二位以下を大きく引き離している。二位は「相談・心のケア」、ほぼ同数で自らの経験に基づき「医療者との良好な関係」を重要とするものが第三位、それに次いで「家族の協力・理解・支え」、「同病者との交流・患者会」、「医療者との関係性の改善」の順である。「行政・医療機関への要望」、「情報提供・情報公開」、「経済面での制度・支援」なども、期待の大きい分野である。それに対して、「医学の進歩」や「宗教」への期待はあまり大きくはなかった。

ここでの結果をさらに分析すると、次のような特徴がみられる。

① 全体集計では「自身の努力による解決」が最も多い。

「悩みを抱え込まないで人に相談すること」「自分を必要としてくれる場所、人がいること」といったもののほか、胃切除後、就寝中の酸の逆流を防ぐための工夫等、生活の質向上のための自らのノウハウを記載した人もいる。医師、看護師が考えているよりも、患者

は、自ら努力し、悩みを克服しようとしていることがわかるが、それを支援する様々なツールを収集し、開発していくことが重要である。

② 「医療者との良好な関係」は3位である。

自らの経験に基づき「医師との信頼関係が重要」「医師のこの一言で救われた」といった記載が多く見られたため、これらは「医療者との良好な関係」としてまとめた。

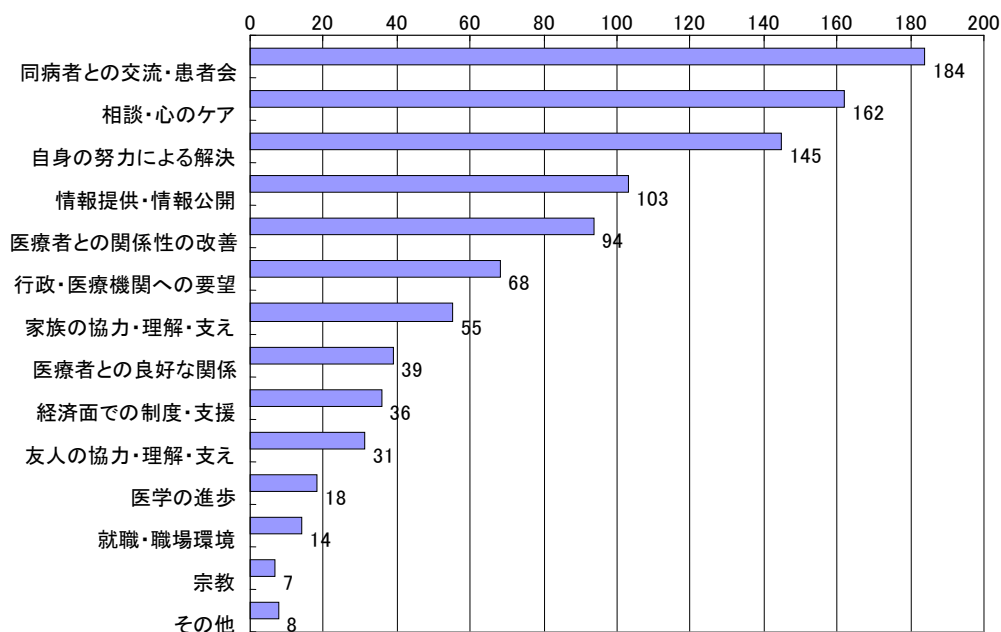
一方、6位に位置する「医療者との関係性の改善」は、「医師に相談したいが、忙しそうで自分からは言い出せない」「医師から温かい一言をかけてほしい」等、現状への不満から関係性の改善を要望する内容が中心である。

③ 自らの体験を語る回答者が多い。

「あなたが抱えた悩みを和らげるために何が必要か」というこの問いに対しては、相談体制、助成制度に関することや日常生活を支援するツール等への具体的要望とともに、「こういうことが大切である」と自らの体験を語る回答が多くみられた。自ら経験した悩みの解決につながる方法を、次の世代に伝えたい意志が働いているようにみえる。

図 5-2 必要な対応策・支援策・支援ツール（患者会等）

件数=964 (件)



一方、図 5-2 は患者会・患者支援団体の自由回答をまとめた結果である。この設問に回答したのは 546 人で、一人当たり 1.8 件、964 件の要望があげられた。

その内容としては、「同病患者との交流・患者会」をあげた人が最も多く第一位である。第二位が「相談・心のケア」、次いで「自身の努力による解決」、「情報提供・情報公開」、「医

療者との関係性の改善」の順である。

患者会・患者支援団体所属者の回答には、次の点に特徴がみられる。

① 「同病者との交流・患者会」が最も多い。

自らの体験に基づき、入院中に知り合った同病者と話すことや患者会に所属することが支えになるという回答が中心である。特に患者会等に所属することで、自分の話を聞いてもらえる、精神的バックアップを受けられる、必要とする知識を得られる、健康な人にはわかってもらえない思いを共有できるという4つの利点をあげる人が多い。

② 必要とする支援・ツールに対する具体的な要望が多い。

患者会・患者支援団体所属者はメンバー同士で十分な話し合いがなされているせいか、日常的に必要なとする支援ツールや制度等に関する要望が具体的に記されている。